

低所得者の 実態に沿った支援策を

決算・保健福祉

10月2日、9月議会の決算特別委員会（保健福祉委員会関連）の審査で、金子あきよ、久保みきの両市議が質疑しました。

金子市議は、介護保険料、国保税の滞納者の実態についてとりあげました。介護保険料の滞納者は第1段階、第4段階の順に多い状況です。担当課から「第4段階では、世帯内に住民税課税者がいると、本人に所得がなくても保険料が引き上げられるため負担が重くなる実態がある」との認識が示されました。金子市議は保険料を

滞納して介護サービス受給に支障が生じることはない

のかを質し、償還払い化や負担割合の変更をされている人が252人もいることが明らかになりました。金子市議は「朝霞市では低所得者軽減措置を国の制度に上乗せして実施し、第1段階の保険料率を0.19にしている。本市でも低所得者の実態に沿った支援策を取るべき」と求めました。国保税についても、滞納者のうち所得なしの区分がいちばん多くなっています。金子



市議は、基金積立金8億1000万円の財源は何かを問い、歳入歳出の差、つまり実質収支の黒字分であることを明らかにしました。金子市議は「財源はあるということだ。基金の活用で国保税そのものを引き下げるべき」と求めました。

障がい者グループホームの 市独自補助を増やして

続いて久保市議が、障がい者と高齢者の問題を取りあげました。障がい者グループホームは16年前の9か所から昨年度は127か所へと急増しましたが、親亡き後や老障介護の課題は依然として深刻です。昨年度は株式会社運営の事業所で不適切対応に関する相談が12件寄せられました。重度障がい者向けシェアハウスでも、安心を強調する宣伝が行われている一方で、実

際の運営では看過できない不適切な対応が確認されています。「このままでは、障がい者のしあわせどころが不幸になるところばかり増えてしまう。障がい者一人ひとりに向き合う法人の声をていねいに聞き、望む支援を実施することが重要だ」とする久保市議に対し市は「法人が望む支援は重要だが、市内事業所全体の資質向上を常にテーマとしてとりくむべき」と答弁しました。また、さいたま市の障がい者のグループホームへの独自補助は約1500万円で、政令市平均約3億5000万円、横浜市約38億円と比べ極めて少なく、久保市議は拡充を強く求めました。



決算・まちづくり

駐輪場を増やすために

10月5日、9月議会の決算特別委員会（まちづくり委員会関連）の審査で、池田めぐみ、金子あきよの両市議が質疑しました。

池田市議は、民営駐輪場整備への補助金の活用実績が昨年度、日進駅（北区）の1件だけだったことを確認しました。北浦和駅東口では、大規模駐輪場が閉鎖され駐輪場不足が課題ですが、根気強く議会で取り上げることで、市も民間に働きかけ、閉鎖前に200台の新規駐輪場を確保することができました。しかしまだ足りません。地域の実情に応じて制度をさらに周知し、活用を促すことを求めました。

放置自転車については、昨年度1449台が撤去されました。しかし、与野駅東口では民有

地を理由に撤去対象外となる区域があり、昨年度には倒れた放置自転車による市民の負傷も発生しています。市民の安全を守るため、駅前放置自転車禁止区域として実効性ある対策を求めました。

また、南部エリアレジャープール整備推進事業については、コンサルタント会社と複数年で契約していますが結論がでていません。原山市民プールの存続を求めるとともに、レジャープールを南北1か所ずつとする「あり方方針」そのものの撤回を求めました。

土地区画整理事業をすすめて

続いて金子市議が、南区内で土地区画整理事

業が進まないために、いまだに本下水にならないところが残っている問題を取りあげました。

大谷口・太田窪土地区画整理事業地内では、築25年、112戸のマンションが浄化槽のままとなっています。当然、浄化槽の維持管理、劣化に対する修繕などに費用がかかることから、住民の負担もあり、悪臭も生じて近隣にも悪影響が出ています。東浦和第二土地区画整理事業についても、広ヶ谷戸の既設住宅で、一部本下水が通っていない実態があります。質疑を通じて、どちらも公共施設である道路や調整池など



の建設が計画よりも遅れていることによるものです。金子市議はどちらの事業も着手から約30年、こうした状況が続いていることを指摘し、事業の着実な前進を強く求めました。

また、既設の戸建て住宅でも活用できる雨水浸透枳（しんとうます）導入のための助成金制度の検討状況についてもとりあげ、実現を求めました。

あなたの身近な市議会議員です



緑 区
松村としお



桜 区
久保 みき



南 区
金子あきよ



見沼区
とばめぐみ



中央区
たけこし連



浦和区
池田めぐみ